令和9年度実施分
協働事業・市民活動助成事業
公開プレゼンテーション審査資料

（HP掲載用）

目次（プレゼンテーション発表順）

No	区分	事業名	団体名、事業担当課名	市民活動助成		協働	ページ
				スタート	ステップアップ		
1	新規	松戸・子どもの音楽体験つなぐ・ひろげる事業	Chloris Music（クロリス・ミュージック）		○		1
2	新規	松戸の踊りの文化継承事業	踊るまつどのひとたち 文化財保存活用課			○	5
3	2回目	2050年ゼロカーボンシティまつどへの機運醸成事業	一般社団法人銀座環境会議 環境政策課 ゼロカーボンシティ推進担当室			○	13
4	新規	あいみる居場所の拡大強化事業	あいみる	○			19
5	新規	松戸カレーフェスティバル2027事業	特定非営利活動法人桜JB FOUNDATION	○			23
6	新規	「いじめから子どもが笑顔へ」ワークショップ事業	市民の人権擁護の会千葉支部	○			27
7	新規	誕生日に届くあたたかなつながりづくり事業	特定非営利活動法人さわやか福祉の会・松戸くらしの助っ人	○			31
8	新規	「蘇る鮮魚街道」冊子発行事業	金ケ作陣屋研究会		○		35

No. 1

《　ステップアップ助成　》

松戸・子どもの音楽体験

つなぐ・ひろげる事業

Chloris　Music（クロリス・ミュージック）

事業計画書

事業名	松戸・子どもの音楽体験 つなぐ・ひろげる事業
団体名	Chloris Music（クロリス・ミュージック）

事業概要
乳幼児期の体験格差と親子のアタッチメント形成に、クラシック楽器によるコンサートでアプローチします。未就学の子どもたちに体験してもらうことで親子の感性と心を育て、子育てを応援し、音楽を乳幼児から体験することで文化振興への入り口となる機会を提供します。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	「子育てにやさしいまち、まつど」を掲げる松戸市では、子育て支援の場や保育施設が充実している一方、未就学児とその保護者が文化・芸術に気軽にふれられる機会はまだ限られています。特に未就学児のいる共働き世帯が多くなっている松戸市では、日頃利用している施設や近隣等、より身近な場所での文化振興への機会を設けることが、乳幼児期の体験格差を減らしていく第１歩となると考えられます
事業の目的	乳幼児期における音楽体験格差の緩和をさらに促進させるべく、子育て家庭と、保育・子育て支援施設へ広く届けるため、本事業の活動内容・理念・プログラムをわかりやすくまとめたリーフレットを制作し、配布する。親子が気兼ねなく参加できる 「子育て世代に優しい文化事業」 として活動の周知を図る。より多くの親子の参加を促すために会場を大きな場所で行うことで、１組でも多くの親子へ体験を提供する。また、施設への出張コンサート依頼を強化することで親の趣味思考での体験格差を減らし、松戸市内の未就学児の音楽における体験の格差を減らすことを目的とする。
事業内容	1　事業内容 (1) 事業紹介リーフレット・１０月コンサートのチラシ制作 【仕様】　A4 三つ折り・両面フルカラー、2,000 部／チラシ 500 部 【内容】　団体の想い/未就学児・親子の音楽体験について/演奏楽器と演奏者紹介/プログラム例（うたってあそぼ！りとみっくコンサート/おはなしコンサート等)、松戸での活動写真、参加者の声、出張コンサートの依頼方法、HP・Instagram（QR コード）　構成・文章・デザインは構成員が担当し、写真はＲ７度内に撮影したものを中心に用意する。 (2) リーフレット・チラシ配布、コンサート開催の周知 【場所】　松戸市内の保育園・幼稚園・認定こども園、子育て支援センター、おやこ DE 広場、図書館、市民センター等 【方法】　約 300 か所へ郵送・持参・市役所こども政策課に相談し配架 【その他】　コンサート会場、市民活動イベント等での手渡し配布、HP・SNS でのデジタル版公開 (3) 親子コンサート（１回） 松戸市内会場で未就学児親子向けコンサートを開催。リーフレットを配布して１月の出張コンサートの周知・アンケートを実施。動画作成のための撮影を実施。 (4) 出張コンサート（５回） リーフレットをきっかけに依頼を受けた市内の保育・子育て支援施設で、出張コンサートをモデル実施する。またそのうち１施設には動画作成の協力をいただき、無料出張コンサートを実施するとともに撮影・依頼者からのインタビューも取り入れる。 (5) 動画公開 親子コンサート・出張コンサートの動画を編集・公開し、乳幼児期における

<table>
<tr><td></td><td>音楽体験の魅力を発信。動画をきっかけに、行きたくても来られない親子へのアプローチ、またコンサートに参加するハードルを下げ、親子でできる音楽体験格差の緩和につなげる。（１０月・１月の２回分それぞれ１１月・２月公開）
2　スケジュール
<table>
<tr><th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、場所など</th></tr>
<tr><td>4 月～5 月</td><td>事業案内リーフレット/チラシ制作・印刷</td><td>実施体制：構成員１名　　対象：なし
場所：団体事務所</td></tr>
<tr><td>6 月</td><td>リーフレット/チラシ配布・配送</td><td>実施体制：構成員２名　　対象：松戸市内の施設　　場所：松戸市全域</td></tr>
<tr><td>10 月</td><td>親子コンサート開催</td><td>実施体制：構成員１名・外部演奏家２名・外部委託動画撮影者
対象：地域の親子
場所：松戸市市民劇場（予定）</td></tr>
<tr><td>1 月～2 月</td><td>施設等出張コンサート</td><td>実施体制：構成員１名・外部演奏家２名
対象：松戸市内施設の中から５施設
場所：松戸市全域</td></tr>
<tr><td>11 月・2 月</td><td>動画作成・公開</td><td>実施体制：構成員１名・外部動画委託動画編集者
対象：松戸市内施設・地域の親子
場所：団体事務所</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>既存の事業からステップアップする部分</td><td>団体は令和８年度にスタート助成を受け、松戸市内で親子向けクラシック コンサートを開始し、参加者からは好評を得た一方で、「保育園に来て欲しいと思った」「通っている子育て支援センターで開催してくれると嬉しい」という声をいただき、活動が必要な親子や施設に情報が届いていないことが課題となっている。未就学児期の音楽体験による親子の愛着形成・体験格差・非認知能力の向上、またコンサートの魅力を発信するリーフレットを作成し、松戸市内子育て施設・子育て世代への更なる事業の周知することで、未就学児とその保護者が文化・芸術に気軽にふれられる機会の提供と、松戸市の未就学児及び子育て世代の文化振興へ寄与する。</td></tr>
<tr><td>事業従事者数</td><td>２名</td></tr>
<tr><td>事業の目標</td><td>・松戸市全域の子育て関連施設への事業の周知→子育て支援市民団体との連携(Ｒ８年度内に連携)
・リーフレット配布者のみ閲覧できる HP の記事を作成・閲覧者数をカウント、 配布数の２割の閲覧を目指す
・出張コンサート希望施設からの依頼・実施 ５施設(問合せ 10 件)
・10 月コンサート参加数１家族１組とし、30 組。延べ 100 人／また参加者からの施設依頼促進（２施設）
・動画公開後、２ヶ月で Instagram では 1,000 回再生・YouTube では 200 回再生</td></tr>
<tr><td>今後の展望</td><td>・りとみっくコンサートを継続開催(Ｒ８年度スタート)
・松戸市内の乳幼児施設・保育園等からのコンサート訪問増加
・団体へのファンを増やし、親子サロン等とのネットワークを広げ、共催や協力のもとコンサート開催(年１ 回程度)
・森のホール小ホールや松戸市民劇場で集客 300 名規模のコンサート開催（ 2028 年目標）</td></tr>
</table>

事業の予算概要

【収　入】　　（単位：円）

科　目		金　額	積算内訳
団体	イベント参加費	¥　60,000	コンサート入場料　2,000円×30組（親子コンサート）
	交通費	¥　40,000	出張コンサート交通費　10,000円×4施設
	団体拠出金	¥　9,160	
	自己資金の合計額　（A）	¥　109,160	
市	市民活動助成金　（B）	**¥　300,000**	
合計額（C）＝（A＋B）		**¥　409,160**	

【支　出】

科　目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥　280,000	外部演奏家謝礼（コンサート：20,000円×2名×1回、出張コンサート：20,000円×2名×5回）計240,000円 動画撮影者　（コンサート：20,000円×1回、出張コンサート：20,000円×1回）　計40,000円
	委託費	¥　30,000	外部動画委託編集者　（録画1時間×3カメラ編集×2動画）　30,000円
	消耗品費	¥　8,700	養生テープ　500円 送付状印刷用　インク代7,000円／用紙代500円 プログラム印刷用紙700円
	印刷製本費	¥　18,160	リーフレットデザイン　Canva使用料　1,180円×2ヶ月 リーフレット印刷　2,000部　8,300円 封筒　300部　5,000円 チラシ印刷　コンサート500枚　2,500円
	使用料及び賃借料	¥　31,000	音楽著作物使用料　5,000円 Instagram広告 5,000円 会場使用料　11,000円（松戸市民劇場） 付帯設備　10,000円
	通信運搬費	¥　33,000	切手110円×300（松戸市内施設へリーフレット発送）
	対象経費の合計（D）	¥　400,860	
その他経費	旅費交通費	¥　8,300	出張コンサート駐車場　800円×5日程（打ち合わせ・本番） 出張コンサート駐車場　500円×5日程（本番） コンサート打ち合わせ　400円×2日程 コンサートリハーサル時　500円×2日程
	その他経費の合計（E）	¥　8,300	
合計額（F）＝（D＋E）		**¥　409,160**	

【チェック項目】
1　助成金（B）が対象となる経費（D）欄の90%以内、自己資金（A）欄が対象経費（D）欄の10%以上であること。
2　助成金（B）が、スタート助成の場合は１事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は１事業あたり30万円以内であること。

No. 2

《　協働事業　》

松戸の踊りの文化継承事業

踊るまつどのひとたち

文化財保存活用課

事業計画

事業名	松戸の踊りの文化継承事業
団体名	踊るまつどのひとたち
事業担当課	文化財保存活用課

事業概要
現在市内では、担い手不足などにより、地域間で伝統文化の継承状況に大きな開きが生じている。本事業は、このような文化体験格差を是正し、市内のどこに住んでいても伝統文化に触れられる機会を創出する広域連携プロジェクトである。新たな協働を通じて地域の貴重な伝統文化を次世代へ継承を図る。

松戸市の課題	松戸市が策定した「松戸市文化財保存活用地域計画」において、地域に伝わる踊りなどの伝統芸能の文化を次世代へ継承することが掲げられている一方、現在の地域社会においては以下の課題がある。 **① エリアによる人口構成の変化や住民同士のつながりの希薄化に伴う「体験機会の地域格差」** 市内のエリアによって伝統的な踊りの継承度合やコミュニティの活力に偏りが生じており、子どもたちが文化に触れる貴重な機会が失われつつある。その結果、住む場所によって体験機会に格差が生じている。 **② 従来の町内会や自治会といった「狭い枠組み」による文化継承の限界** 伝統芸能の保存や活動が各エリア・団体ごとに孤立しがちであり、イベント・年中行事等において一定の交流はあるものの、地域の垣根を越えた横断的な仕組み（プラットフォーム）が十分に構築されていない。
事業の目的	**① 広域的な盆踊りイベントの開催を通じて、子どもたちの文化体験格差を是正し、松戸の踊り文化を継承する新たな基盤を築くこと** 従来の狭い枠組みを超え、市内のさまざまな地域から人が集まる場（イベント）を創出することで、住宅地の住民や子どもたちに広く体験の機会を提供すること。これにより、担い手不足に悩む地域の保存会と、文化体験の少ない住民をイベントを通じて広くつなぎ、松戸市全体の郷土愛を育むとともに、持続可能な文化継承のきっかけとすること。
事業内容	**１．事業内容** **①地域の枠を超えた「合同盆踊りイベント」の開催** 市内の誰もが集まりやすい拠点を会場として選び、エリアの垣根を越えて誰もが気軽に参加できる盆踊り大会を実施する。 **②「出張体験プログラム」の実施** イベントの開催に先立ち、普段は踊りに触れる機会が少ない地域の公共施設や商業施設等へ出向き、事前のミニ体験会（練習会）を行うことで、本番への参加のハードルを下げる。 Google フォームを使用して、参加者に対してアンケートを実施し、参加満足度を測定する。

③デジタルアーカイブを活用した普及活動

踊りの様子やお手本となる動画を撮影・編集し、オンラインで広く発信する。これにより、イベント終了後も住んでいる地域に関わらず、いつでも自宅や学校で練習・体験できる環境を整える。

YouTube での再生回数で活用度を測定する。

④参加の呼びかけ

前記②の実施 2 か月前（②実施は 4 月・8 月・12 月）により、各公共施設へのチラシ掲示、チラシ配布、SNS での情報発信を通じて実施する。

２．スケジュール

時期	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
４月	**参加者の呼びかけ** （各公共施設へのチラシ掲示・配布、SNS での情報発信）	実施体制：構成員、担当課 対象：親子、若者他関心のある市民 場所：公共施設へのチラシ配架等
４月	**出張体験プログラム** （公共施設や商業施設等へ出向き、事前のミニ体験会を実施）	実施体制：外部講師、構成員 対象：親子、若者他関心のある市民 場所：市民会館又は市民センター
５月	**合同盆踊りイベント** （市内の誰もが集まりやすい拠点を会場として選び、誰もが気軽に参加できる盆踊り大会を実施）	実施体制：外部講師、構成員 対象：親子、若者他関心のある市民 場所：公園又は広場
８月	**参加者の呼びかけ** （各公共施設へのチラシ掲示・配布、SNS での情報発信）	実施体制：構成員、担当課 対象：親子、若者他関心のある市民 場所：公共施設へのチラシ配架等
１０月	**出張体験プログラム** （公共施設や商業施設等へ出向き、事前のミニ体験会を実施）	実施体制：外部講師、構成員 対象：親子、若者他関心のある市民 場所：市民会館又は市民センター
１１月	**合同盆踊りイベント** （市内の誰もが集まりやすい拠点を会場として選び、誰もが気軽に参加できる盆踊り大会を実施）	実施体制：外部講師、構成員 対象：親子、若者他関心のある市民 場所：公園又は広場
１２月	**参加者の呼びかけ** （各公共施設へのチラシ掲示・配布、SNS での情報発信）	実施体制：会員有志、担当課 対象：親子、若者他関心のある市民 場所：公共施設へのチラシ配架等

	２月	**出張体験プログラム** （公共施設や商業施設等へ出向き、事前のミニ体験会を実施）	実施体制：外部講師、構成員 対象：親子、若者他関心のある市民 場所：市民会館又は市民センター
	３月	**合同盆踊りイベント** （市内の誰もが集まりやすい拠点を会場として選び、誰もが気軽に参加できる盆踊り大会を実施）	実施体制：外部講師、構成員 対象：親子、若者他関心のある市民 場所：公園又は広場
	随時	**デジタルアーカイブ**	実施体制：外部講師、構成員 対象：親子、若者他関心のある市民 場所：イベント会場他
事業の目標	**「合同盆踊りイベント」の実施** 令和 9 年度に 3 回開催（春、秋、冬）。各回 50 人以上（うち、子ども 20 人以上）の参加。 **「出張体験プログラム」の実施** 令和 9 年度に 6 回開催（春、秋、冬各 2 回）。参加満足度 70%以上（5 段階評価の上位 2 つが 70%以上） **デジタルアーカイブを活用した普及活動** 動画　年間 3 本公開（6 月、12 月、3 月） 年間再生数　各 600 再生回数以上		
協働の必要性（団体）	本事業が目指す「地域間格差及び体験格差の是正」は、一過性のイベントにとどまらず、松戸市の無形文化財や地域コミュニティを長期的に守るための持続可能なアプローチである。文化財保存活用課が有する「伝統芸能の保存・人材育成に関するノウハウやネットワーク」と、私たちが培ってきた「踊りイベントの企画・運営実績」を掛け合わせることで、これまで伝統文化に触れる機会が少なかった地域へもアプローチを広げ、市内のどこに住んでいても等しく文化を体験できる仕組みを構築する。 行政の持つ信頼性と民間の柔軟性を活かした協働体制を築くことで、市内の子どもたちが住む場所に関わらず、等しく松戸の豊かな文化を学び、郷土愛を育む環境を実現できると考えている。		
協働の必要性（市）	市としては、「松戸市文化財保存活用地域計画」の基本方針の中で、「松戸の歴史文化を守るため、地域とのつながりを深める」ことを謳っており、課題として「若い世代へのアプローチを強化」することや、「地域（文化財を周囲で支える人々）とのつながりを強化」することを挙げている。その取り組みの一つに、「取組２３　無形の民俗文化財の後継者確保・育成へのサポート」があり、新たに「踊る　まつどのひとたち」と協働することは、その対象を広げられる点で、非常に有意義である。 また、当該団体が事業の目的として掲げている「市内の様々な地域から人が集まる盆踊りイベント」や「伝統的な保存会と子供を中心とした住民をつないでいく」ことは、地域計画で上げた課題を解消する一		

	助となるものと考える。
事業実施の役割分担	① 団体：事業の企画・運営・実施 ② 担当課：行政手続き等に関する助言・指導、公園等公共施設の利用調整、行政広報媒体を活用した情報発信支援と信用補完
今後の展望	**1年目（令和9年度）基盤構築** 伝統文化の体験プログラムを市内全域で実施し、実施後はデジタルアーカイブを活用した普及活動を行い、誰もが伝統文化に触れられる機会を創出する。 **2年目（令和10年度）モデル展開** 伝統文化の体験プログラムを確立し、1 年目の参加者を中心に特定エリアや学校、町会・自治会等とのネットワーク構築に着手する。 **3年目（令和11度）エリア拡大とネットワーク強化** 構築したネットワークを基盤に、指導者を育成し、プログラムを市内各エリアへ段階的に展開する。学校、町会・自治会等との連携を深める。その後は展開したエリアでのプログラムを定着させ、活動を自走（持続可能化）させる。そして3年間で広げたネットワークにより、市内の担い手不足の解消を図る。

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】　　（単位：円）

区分	科　目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額　（A）	¥　256,500	※別紙　労力換算計算書　参照

【収　入】

区分	科　目	予算額	積算内訳
団体	イベント参加費	¥　27,000	出張体験プログラム　100円×20名＝2000円を6回 合同盆踊りイベント　100円×50名＝5000円を3回
	団体拠出金	¥　15,690	
	自己資金の合計額（B）	¥　42,690	
市	協働事業負担金　（C）	¥　222,210	
合計額（D）＝（B＋C）		¥　264,900	

【支　出】

区分	科　目	予算額	積算内訳	
負担金の交付対象経費	報償費	¥　15,000	動画編集	1回1,000円×1名×6回、2名×3回 1本1,000円×3本
	交通費	¥　18,000	交通費	400円×5名×6回（出張体験） 400円×5名×3回（合同盆踊り）
	食糧費	¥　42,000	参加者用飲料またはお菓子	100円×20名×6回（出張体験） 200円×50名×3回（合同盆踊り）
	印刷製本費	¥　18,000	チラシ印刷	2,000円（100枚）×6回（出張体験） 2,000円（100枚）×3回（合同盆取り）
	使用料及び賃借料	¥　79,500	会場使用料（公園・市民センター） 音響機材使用料	1,000円×6回＋4,500円×3回 20,000円×3回
	保険料	¥　74,400	イベント保険	6,200円×6回 12,400円×3回
	対象経費の合計（E）	¥　246,900		
その他経費（対象外）	打合せに伴う交通費	¥　18,000	交通費	400円×5名×6回（出張体験） 400円×5名×3回（合同盆踊り）
	その他経費の合計額（F）	¥　18,000		
合計額（G）＝（E＋F）		¥　264,900		

【チェック項目】

1 協働事業負担金（C）が、対象となる経費（E）欄の90%以内であること。

2 協働事業負担金（C）が、自己資金（B）欄に労力換算額（A）欄を加えた額を超えないこと。

3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

項　　目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×1140円
	合同盆踊りイベント準備	34,200 円	5 人 × 2 h × 3 回 × 1140 円
	合同盆踊りイベント実施	51,300 円	5 人 × 3 h × 3 回 × 1140 円
	出張体験プログラム準備	68,400 円	5 人 × 2 h × 6 回 × 1140 円
	出張体験プログラム実施	102,600 円	5 人 × 3 h × 6 回 × 1140 円
合　計　（A）		256,500 円	

事業の実施体制

事業従事者数	5人

従事者	事業における主な役割
A	事業統括、行政との連携窓口
B	事業企画、イベント等の募集・周知、アンケート集計
C	イベント準備および運営
D	イベント準備および運営
E	イベント準備および運営

No. 3

《　協働事業　》

2050 年ゼロカーボンシティまつどへの

機運醸成事業

一般社団法人銀座環境会議

環境政策課 ゼロカーボンシティ推進担当室

事業計画

事業名	2050 年ゼロカーボンシティまつどへの機運醸成事業
団体名	一般社団法人銀座環境会議
事業担当課	環境政策課ゼロカーボンシティ推進担当室

事業概要	
「まつど環境みらい会議」を中心に、2050 年ゼロカーボンシティまつどへの実現のため、使い捨て容器削減に向けた給水スポットの設置や、生ごみ処理容器「キエーロ」の普及に取り組む。キエーロ先進地域への視察で得るノウハウをもとに市民向けワークショップを実施し、普及を図る。	
松戸市の課題	市は 2050 年ゼロカーボンシティまつど実現を目指す一環として、2023～25 年度に市民参加の「松戸市環境未来会議」を開催した。これまで同会議の中で市民が提案した取り組み案は、冊子にするなどして市の公式サイトや広報等で発信しているが、2050 年ゼロカーボンシティまつどの達成に向けた市全体の機運を高めていくには、以下の課題がある。 ① 従来の発信で会議の成果を多くの市民に届けていくのは容易でない。 ② 最終的には個々人や個々の事業者が実践する取り組みであっても、点だけでは市民、市内事業者、行政が一体となった運動になっていかない。
事業の目的	2050 年ゼロカーボンシティまつど実現のために、「まつど環境みらい会議」という会議体で検討した施策を実行する。使い捨て容器削減の取り組みに加えて、生ごみという、身近で、全ての市民に関係する課題への対応を図る。家庭ごみに占める生ごみの割合は大きく、水分を含んだままの焼却によるエネルギーロスや、収集・処理に伴う CO2 排出が課題となっている。目的は以下の通りである。 ① 市民が自らできる生ごみ減量・脱炭素行動（キエーロ活用）を広げる ② 8 年度開始の使い捨て容器削減活動（給水スポット・マイ容器スポット）を継続、拡大させる ③ ①②を通じて 2050 年ゼロカーボンシティまつどの実現への機運を継続的に醸成する
事業内容	キエーロは、微生物が生ごみを分解・減量する、安価で燃料を使わない生ごみ処理法で、神奈川県葉山町で考案され全国で導入が進んでいる。 ① キエーロ先進地域（葉山町・鶴ヶ島市）への視察 会議体メンバー及び担当課職員が参加し、運用体制や普及啓発の工夫、行政の関わり方を学ぶ。葉山町は窓口での低価格頒布、鶴ヶ島市は購入費補助と継続的な効果測定と性格の異なる 2 つの事例から松戸市に適した進め方を探る。視察内容は報告書にまとめ、ワークショップ設計に活かす。 ② 市民向けキエーロ作成ワークショップの実施 視察で得た知見をもとに、市民が自らキエーロを組み立てて持ち帰れるワークショップを市内公共施設等で 3 回開催する。材料費は実費の一部を参加者が負担することを基本とする。

対象は、一般市民を中心に、カフェや老人福祉施設、幼稚園・保育園等にも呼びかける。一般家庭を除いてはキエーロ単体で食物残渣全てを処理するのは困難と思われるが、以下の理由/背景からこれらも対象とする。カフェは他の業態の飲食店と比べて食物残渣が少なく、環境や街づくりといったことに関心の高い店が多い。このため、リフィルスポットも含め参加を呼びかける。老人福祉施設は、地域の交流拠点となることも視野に、園芸活動など行う施設を中心に案内する。幼稚園・保育園は、環境学習の観点から関心を寄せる園を想定している。

また、ワークショップの模様を録画し要約した自作マニュアル動画を作成し、下記のモニター世帯による SNS 発信には、その動画を添えてもらう。

③　設置世帯のモニタリング

参加世帯にモニターとして使用状況を記録し、SNS で発信してもらい、これを拡散することで、その有用性について認知度を高める。

④リフィル活動の継続

協働事業 1 年目に引き続き、給水スポット・マイ容器スポットの開拓と SNS 等での発信を行う。また、市主催イベント等での仮設給水機の設置とこれに伴う使い捨て容器削減推進（市内リフィルスポット周知）の意識啓発を行う。

２　スケジュール

時期	具体的な取り組み	実施体制・対象・場所
5 月	視察先との日程調整、事前学習会の実施	まつど環境みらい会議・市内公共施設
6 月	キエーロ先進地域視察（葉山町・鶴ヶ島市）	まつど環境みらい会議・各市
7 月	視察報告とりまとめ、ワークショップ設計	まつど環境みらい会議
7 月	次年度（3 年目）の事業検討開始	まつど環境みらい会議
8 月	キエーロ作成ワークショップ第 1 回開催	まつど環境みらい会議・地域住民・市内公共施設
10 月	キエーロ作成ワークショップ第 2 回開催	まつど環境みらい会議・地域住民・市内公共施設
11 月	市主催イベントでのキエーロ展示･アンケート実施	まつど環境みらい会議・地域住民・市内イベント
11 月	市主催イベントでの仮設給水機設置･市内リフィルスポット周知実施	まつど環境みらい会議・地域住民・市内イベント
1 月	キエーロ作成ワークショップ第 3 回開催､モニタリングの継続	まつど環境みらい会議・地域住民・市内公共施設
2 月	自作マニュアル動画完成	まつど環境みらい会議

事業の目標	① キエーロ作成ワークショップ　3 回開催・参加世帯 30 世帯以上 ② キエーロ設置世帯（モニター）10 世帯登録 ③ SNS 発信 20 回 ④ 給水スポット・マイ容器スポット各 10 拡大（※重複あり） モニター世帯の生ごみ減量効果は、希望世帯に月 1 回程度、使用状況の簡易記録を依頼して確認する。SNS 発信も分析ツールで閲覧数を確認する。
協働の必要性（団体）	生ごみ減量は身近な脱炭素・ごみ削減アクションだが、「キエーロを知らない」「作り方がわからない」「置き場所に不安がある」といったハードルがあり、個人の努力だけでは広がりにくい。市民が手を動かして作り、続けられる場をつくるには多くの市民への呼びかけや会場確保が必要であり、市が後押しすることで参加者の安心感や協力が得やすくなる。また、視察先との調整など、市の発信力・調整力が実務面で大きな後押しとなる。
協働の必要性（市）	生ごみ減量という新たなテーマを加えることで、環境未来会議の成果を継続的な市民アクションとして提示でき、2050 年ゼロカーボンシティまつどの実現に向けた市民参加を広げられる。視察の実施やワークショップの運営、参加世帯への継続的な声かけといった草の根の実務は行政だけでは手が回りにくく、団体や市民との協働の意義がある。あわせて、キエーロ先進自治体（葉山町・鶴ヶ島市）の運用実態を学ぶことは、松戸市自身が今後の生ごみ減量施策を検討するうえでも有用な機会となる。
事業実施の役割分担	①　団体：事業全体の実施、進捗管理、会計管理、視察先との調整、ワークショップの企画・運営、SNS 発信 ②　担当課：視察先自治体への紹介・調整協力、ワークショップ会場の確保協力、イベントでの協働、事業の発信
今後の展望	協働事業 3 年目の活動については、本事業を実施しながらまつど環境みらい会議で検討していく。リフィルやキエーロ同様の、次なる市民による直接的、具体的なアクションも検討するが、松戸市の施策を例にとるならば「健康マイレージ」のような、リフィルやキエーロを含む、松戸市環境未来会議の成果物である市民のアクションプランに沿った行動にポイントを付与し、報酬が得られる、市民の環境行動を後押しする仕組み作りも検討する。リフィルについては、引き続き少額の予算を計上し、無理のない範囲でスポットを拡大していく。キエーロについては、モニター世帯の発信とそれに伴う自作マニュアル動画による拡大を図る。これらは、協働事業の 3 年間の間に大きな勢いを作ることで、協働働事業終了後も地道に拡大していくことが可能であると考えている。

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】　　（単位：円）

区分	科　　目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額　　（A）	¥　420,660	※別紙　労力換算計算書　参照

【収　入】

区分	科　　目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥　37,410	事業費の一部を団体の会計より拠出
	ワークショップ参加費	¥　60,000	材料費の一部負担　2,000円×30世帯
	自己資金の合計額（B)	¥　97,410	
市	協働事業負担金　（C）	¥　442,890	
合計額（D）＝（B＋C）		¥　540,300	

【支　出】

区分	科　　目	予算額	積算内訳	
負担金の交付対象経費	報償費	¥　45,000	ワークショップ木工指導謝礼	15,000円×3回
	交通費	¥　10,800	ワークショップスタッフ交通費	600円(往復)×6人×3回＝10,800円
	消耗品費	¥　282,000	板（厚さ1.5cm等） 角材 ポリカ波板 ねじ・くぎ類 蝶番	150円×25枚＝3,750円 200円×11本＝2,200円 800円×2枚＝1,600円 5円×170本＝850円 500円×2個＝1,000円 （１基あたり9,400円×30基）
		¥　7,700	手引きのこぎり クランプ（材料の固定用） ポリカ波板用はさみ口 下穴用ドリルビット 紙やすり	900円×3本＝2,700円 500円×5個＝2,500円 1,000円×1丁＝1,000円 300円×2本＝600円 30円×30枚＝900円
		¥　12,000	給水スポット広報物（ステッカー） マイ容器スポット広報物（ステッカー）	120円×50枚＝6,000円 120円×50枚＝6,000円
	印刷製本費	¥　6,500	チラシ印刷 配布資料印刷	5円×1,000枚＝5,000円 50円×30部＝1,500円
	委託料	¥　15,000	自作マニュアル動画作成	編集費　15,000円
	使用料及び賃借料	¥　4,500	ワークショップ会場使用料	500円×3時間×3回＝4,500円
		¥　60,000	水道直結型仮設給水機	3泊4日基本料金35,000円、冷却器オプション25,000円
	通信運搬費	¥　8,600	モニター世帯・関係先への郵送	430円×20件＝8,600円
		¥　40,000	水道直結型仮設給水機	往復送料40,000円
	対象経費の合計（E）	¥　492,100		
その他経費（対象外）	食糧費	¥　20,000	会議体運営時の茶菓子代等	500円×10人×4回＝20,000円
	交通費（自己負担）	¥　28,200	視察（葉山町） 視察（鶴ヶ島市）	1,150円×往復×6人＝13,800円 1,200円×往復×6人＝14,400円
	その他経費の合計額（F）	¥　48,200		
合計額（G）＝（E＋F）		¥　540,300		

【チェック項目】

1 協働事業負担金（C）が、対象となる経費（E）欄の90%以内であること。

2 協働事業負担金（C）が、自己資金（B）欄に労力換算額（A）欄を加えた額を超えないこと。

3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

別紙

労力換算計算書

（単位：円）

項　　目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×1140円
	葉山町・鶴ヶ島市視察打合せ	13,680 円	6 人 × 2 h × 1 回 × 1140 円
	葉山町・鶴ヶ島市視察諸手配	4,560 円	2 人 × 2 h × 1 回 × 1140 円
	葉山町・鶴ヶ島市視察	68,400 円	6 人 × 5 h × 2 回 × 1140 円
	葉山町・鶴ヶ島市視察振返り	13,680 円	6 人 × 2 h × 1 回 × 1140 円
	葉山町・鶴ヶ島市視察報告書作成	3,420 円	1 人 × 3 h × 1 回 × 1140 円
	ワークショップ設計打合せ	41,040 円	6 人 × 2 h × 3 回 × 1140 円
	ワークショップ広報打合せ	13,680 円	6 人 × 2 h × 1 回 × 1140 円
	ワークショップチラシ作成	3,420 円	1 人 × 3 h × 1 回 × 1140 円
	ワークショップ広報	41,040 円	6 人 × 2 h × 3 回 × 1140 円
	ワークショップ材料調達	13,680 円	2 人 × 2 h × 3 回 × 1140 円
	ワークショップ当日運営	68,400 円	5 人 × 4 h × 3 回 × 1140 円
	モニター世帯連絡調整	45,600 円	2 人 × 1 h × 20 回 × 1140 円
	スポット開拓作戦会議	22,800 円	5 人 × 2 h × 2 回 × 1140 円
	スポット開拓	13,680 円	6 人 × 1 h × 2 回 × 1140 円
	スポット情報発信	3,420 円	6 人 × 0.5 h × 1 回 × 1140 円
	市主催イベント打ち合わせ	18,240 円	4 人 × 2 h × 2 回 × 1140 円
	市主催イベント参加	31,920 円	4 人 × 7 h × 1 回 × 1140 円
合　計　（A）		420,660 円	

事業の実施体制

事業従事者数	6　人

従事者	事業における主な役割
A	統括、渉外、会計、広報、視察企画・実施、ワークショップ設計・運営、スポット開拓・情報発信
B	広報、視察企画・実施、ワークショップ設計・運営、スポット開拓・情報発信
C	広報、視察企画・実施、ワークショップ設計・運営、スポット開拓・情報発信
D	視察企画・実施、ワークショップ設計・運営、スポット開拓・情報発信
E	視察企画・実施、ワークショップ設計・運営、スポット開拓・情報発信
F	視察企画・実施、ワークショップ設計・運営、スポット開拓・情報発信

No. 4

《　スタート助成　》

あいみる居場所の拡大強化事業

あいみる

事業計画書

事業名	あいみる居場所拡大強化事業
団体名	あいみる

事業概要
市内の孤独･孤立を抱えた高齢者に､地域と繋がることで社会の一員であることを感じてもらい、地域に関心をもつことで、地域住民の互いの顔が分かり、健康で安心・安全に暮らせる地域を作るために、１人より大勢の集まりが楽しいことを感じてもらえる居場所事業を行います。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	西馬橋地域は高齢者や一人家庭が多く、特にコロナ禍以降は、隣近所の付き合いを控えるようになり、家の中で１日テレビを見ている、というような孤独・孤立を抱えた高齢者が目立ちます。人口ピラミッドは、逆三角形となり、今までに経験したことのない、超高齢化社会を迎えています。
事業の目的	孤独・孤立を抱えた高齢者を、元気なうちに居場所に誘い、みんなで楽しく過ごすことで社会の一員であることを自覚してもらい、地域住民の顔、隣近所の人の顔を覚えることで孤独・孤立を解消します。社会に関心を持つことで、隣の家の雨戸が空いていないことに関心を持つ高齢者が増えます。結果として、孤独・孤立を解消することは健康面だけでなく、災害・防犯面でも役に立ち、安心・安全に暮らせる地域に繋がります。その手段として通いの居場所は有効で即効性があると考えます。
事業内容	1　事業内容 ①居場所の開催は月４回（毎週木曜日）１回２時間で、口腔体操・ストレッチ体操・折り紙・脳トレ・ゲーム・歌・お茶をしながら各自の情報交換をする時間を設けます。参加者の誕生日には、お祝いの花を１輪手渡し、その方の生い立ちや現在の心境などを皆の前で話してもらいます。居場所拡大のため不定期で行っていたイベントを毎月１回以下記載のとおり行います。 ４月・11 月講座…松戸市が行うパートナー講座（出前）を利用しフレイル予防の講義をしてもらいます。 ５月折り紙…兜などを参加者・構成員と皆で作り、感想を伝えあいます。 ６月講座（海外の生活習慣の違い）…海外経験の豊富な構成員が講師になり生活習慣や物価の違いを話してもらいます。 ７月七夕…近所の方から笹竹をもらい、短冊を用意し、皆で思い思いのことを書いて笹竹に飾ります。 ８月夏祭り…縁日を再現するため、かき氷・ヨーヨー釣り等を行い、交流を図ります。 ９月お月見…大きな月を紙で作って正面に貼り、お団子・お茶でお月見をします。 10 月ハロウィーン…かぼちゃの代わりに柿に顔や絵を書き懇談します。 12 月クリスマス…子供達に買ってあげたクリスマスツリーを持ち込み、飾りづけをし、プチケーキとお茶で懇談します。 １月新年会…小さなお餅でお雑煮を作り、食べながら一人ずつ新年の抱負を出し合います。 ２月節分…豆を少し用意し、形だけの豆まきをします。

<table>
<tr><td></td><td>３月ひな祭り…折り紙でお雛様を作り、お雛様の歌を歌います。
②居場所の周知
チラシを２ヶ月ごとに地域や公共施設へ配架し、多くの参加者を募ります。
2　スケジュール
<table>
<tr><th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、場所など</th></tr>
<tr><td>４月</td><td>①居場所（３回）・講座
②チラシ作成・配架</td><td>①居場所…構成員、講座…松戸市職員、地域住民、虹の街町会会館
②構成員、虹の街町会館</td></tr>
<tr><td>５月</td><td>①居場所（３回）・折り紙</td><td>①構成員、地域住民、虹の街町会会館</td></tr>
<tr><td>６月</td><td>①居場所（３回）・講座
②チラシ作成・配架</td><td>①同上
②構成員、虹の街町会館</td></tr>
<tr><td>７月</td><td>①居場所（３回）・七夕</td><td>①同上</td></tr>
<tr><td>８月</td><td>①居場所（３回）・夏祭り
②チラシ作成・配架</td><td>①同上
②構成員、虹の街町会館</td></tr>
<tr><td>９月</td><td>①居場所（３回）・お月見</td><td>①同上</td></tr>
<tr><td>10 月</td><td>①居場所（３回）・ハロウィーン
②チラシ作成・配架</td><td>①同上
②構成員、虹の街町会館</td></tr>
<tr><td>11 月</td><td>①居場所(３回)・講座(フレイル予防)</td><td>①居場所…構成員、講師…松戸市職員、地域住民、同上</td></tr>
<tr><td>12 月</td><td>①居場所（３回）・クリスマス②チラシ作成・配架</td><td>①構成員、地域住民、虹の街町会会館　②構成員、虹の街町会館</td></tr>
<tr><td>１月</td><td>①居場所（３回）・新年会</td><td>①同上</td></tr>
<tr><td>２月</td><td>①居場所（３回）・節分
②チラシ作成・配架</td><td>①同上
②構成員、虹の街町会館</td></tr>
<tr><td>３月</td><td>①居場所（３回）・ひな祭り</td><td>①同上</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>既存の事業からステップアップする部分
（ステップアップ助成のみ)</td><td></td></tr>
<tr><td>事業従事者数</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>事業の目標</td><td>参加者数延べ 500 人 高齢者に一人でも多く、居場所に参加してもらう</td></tr>
<tr><td>今後の展望</td><td>本事業を続けることで、隣近所の顔を覚え、声を掛け合えるような地域となり、災害時においても本事業が役立つようにしたいと考えております。事業を続け、賛同者が増えるよう活動を続けていきます。</td></tr>
</table>

事業の予算概要

【収　入】　　（単位：円）

科　目		金　額	積算内訳
団体	参加費	¥　50,000	参加費100円×500名
	団体拠出金	¥　71,500	
	自己資金の合計額（A）	¥　121,500	
市	市民活動助成金（B）	¥　100,000	
合計額（C）＝（A＋B）		¥　221,500	

【支　出】

科　目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	食糧費	¥　24,000	菓子・イベント用菓子（かき氷用氷、月見団子、餅、クリスマスケーキ）、お茶（ティーバック）2,000円×12ヵ月
	消耗品費	¥　177,500	脳トレ本3,000円×5冊、歌集2,000円×20冊、折り紙200円×40セット、大きなボール2000円×１個、カスタネット500円×20個、ヨーヨー300円×20セット、風船100円×20セット、大型輪投げ10,000円、クラフト紙・模造紙500円×24枚、文房具72,500円（ボンド、クリップ、折り紙収納袋、はさみなど）
	印刷製本費	¥　20,000	イベント周知チラシ10円×1,000枚、 事業PRチラシ10円×1,000枚
	対象経費の合計（D）	¥　221,500	
その他経費			
	その他経費の合計（E）	¥　0	
合計額（F）＝（D＋E）		¥　221,500	

【チェック項目】

1　助成金（B）が対象となる経費（D）欄の90%以内、自己資金（A）欄が対象経費（D）欄の10%以上であること。

2　助成金（B）が、スタート助成の場合は１事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は１事業あたり30万円以内であること。

No. 5

《　スタート助成　　》

松戸カレーフェスティバル 2027 事業

特定非営利活動法人

桜 JB FOUNDATION

事業計画書

事業名	松戸カレーフェスティバル 2027 事業
団体名	特定非営利活動法人桜 JB FOUNDATION

事業概要
日本とバングラデシュをはじめとする多様な文化が互いに尊重し合い、交流することで、松戸市を多文化が共生する魅力的なまちへと発展させ、誰もが安心して暮らせる地域社会を創造していくため文化交流イベントを開催します。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市は、外国人市民が増加し、国籍や文化、生活習慣、言語などが多様化している地域であると考えます。 一方で、日本人市民と外国人市民が日常的に交流し、お互いの文化や生活習慣を理解する機会は、まだ十分とはいえない面があります。そのため、文化や言葉の違いによるコミュニケーション不足や、相互理解の不足などが、地域で生活する上でのすれ違いにつながる可能性があります。 また、外国人市民が地域活動や交流の場に参加する機会を増やし、日本人市民とのつながりを築いていくことも重要な課題の一つであると考えます。 このような状況を踏まえ、日本人市民と外国人市民が気軽に交流でき、お互いの文化を理解する機会をつくることが、松戸市における多文化共生の地域づくりにつながると考えます。 今後、松戸市が日本人市民だけでなく、さまざまな国籍や文化を持つ人々にとって、より魅力的で住みやすいまちとして発展していくためには、日本のルールや制度、地域の文化について外国人市民が理解を深める機会を増やすことが重要です。同時に、外国人市民が持つそれぞれの国の文化や伝統を地域社会に紹介し、日本人市民との相互理解を深めることも必要です。
事業の目的	日本人市民・外国人市民ともに交流を深め、お互いの文化や考え方を理解し、尊重し合える地域社会をつくることです。本事業を通して、日本人市民と松戸市在住の外国人が、お互いの文化や生活習慣の違いを知り、理解を深める機会を提供します。 特に、バングラデシュの音楽・踊り・食文化などを紹介するとともに、日本の文化にも触れていただくことで、日本人市民と外国人が交流するきっかけをつくります。これにより、文化や習慣の違いから生じる誤解やコミュニケーション上のすれ違いを減らし、地域で安心して生活できる環境づくりにつなげます。また、外国人市民が地域社会とのつながりを持つことで、地域活動への参加を促進し、日本人市民と外国人市民が互いに支え合える関係づくりにもつながると考えます。本事業を一つのきっかけとして、日本人市民が外国の文化を身近に感じ、多様な文化を尊重する意識を高めることで、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らせる、多文化共生の地域づくりに貢献することを目的とします。

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>1　事業内容
バングラデシュで人気のあるアーティストを本国から招くことにより、バングラデシュの伝統的な音楽や文化を、より本格的かつ直接的に紹介することができます。 また、バングラデシュ人住民だけでなく、日本人市民や他国籍の市民にもバングラデシュ文化に触れていただく機会となり、日本人市民と外国人との相互理解や地域における多文化交流の促進につながると考えております。バングラデシュの伝統的な踊りや歌を披露する文化交流ステージを実施します。
また、日本に住むバングラデシュ人の子どもたちを対象に、バングラデシュと日本の文化を楽しく学び、体験できるプログラムを実施します。例えば、日本の有名な歌を聞きながら一緒に踊るなど。
カレー夕食については、バングラデシュの本格的なカレーを作る店に協賛費を支払ってもらい、出展をする。カレーについては、実費相当額で有償配布する形で参加者に提供する。日本人市民と外国人市民が一緒に食事を楽しみながら交流することで、相互理解と地域のつながりを深めます。
会場：松戸中央公園もしくは日本人市民会館
2　スケジュール
<table>
<tr><td>実施月</td><td>具体的な取り組み</td><td>実施体制、対象、場所など</td></tr>
<tr><td>04/01</td><td>行事保険加入</td><td>構成員</td></tr>
<tr><td>04/03</td><td>コンサートの練習</td><td>構成員、アーティスト、西馬橋市民センター</td></tr>
<tr><td>04/04</td><td>カレーフェスティバル
コンサート
カレー夕食</td><td>構成員、日本人市民・松戸市在住外国人、市内公共施設</td></tr>
<tr><td>04/06</td><td>カレーフェスティバル
閉会式</td><td>構成員、日本人市民・松戸市在住外国人、西馬橋市民センター</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>既存の事業からステップアップする部分
（ステップアップ助成のみ）</td><td></td></tr>
<tr><td>事業の目標</td><td>参加人数 200 名（日本人市民 100 人、外国人市民 100 人）本イベントを一つのきっかけとして、バングラデシュ人をはじめ、さまざまな国籍の人々が松戸市の地域社会に参加し、共に支え合いながら、誰もが安心して暮らせる、国際色豊かで住みやすいまちづくりに貢献することを目指します。</td></tr>
<tr><td>今後の展望</td><td>バングラデシュ人をはじめ、さまざまな国籍の外国人が安全・安心に家族と暮らし、日本人市民と互いの文化や価値観を尊重しながら共に支え合える、魅力的で住みやすい地域社会の実現を目指します。</td></tr>
</table>

事業の予算概要

【収　入】　　（単位：円）

科　目		金　額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥205,700	事業の一部団体拠出金
	事業収入	¥150,000	（協賛費￥10、000×5社）（参加料￥500×200名）
	自己資金の合計額（A）	¥355,700	
市	市民活動助成金（B）	¥100,000	
合計額（C）＝（A＋B）		¥455,700	

【支　出】

科　目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥300,000	アーティスト謝礼として　￥150,000×2人
	使用料および賃借料	¥121,700	会場使用料（松戸市民会館） （午後）　￥22,000（4時間×1回） （夜間）　￥26,400（4時間×1回） 調理室使用料　￥3,300（5時間×1回） 音楽機材使用料　￥50,000 ステージ飾り物　￥10,000 照明　￥10,000
	保険料	¥10,000	行事保険料
	対象経費の合計（D）	¥431,700	
その他経費	食糧費	¥24,000	アーティストたちの食糧費　￥2,000×2人×6回
	その他経費の合計（E）	¥24,000	
合計額（F）＝（D＋E）		¥455,700	

【チェック項目】

1　助成金（B）が対象となる経費（D）欄の90%以内、自己資金（A）欄が対象経費（D）欄の10%以上であること。

2　助成金（B）が、スタート助成の場合は１事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は１事業あたり30万円以内であること。

No. 6

《　スタート助成　》

「いじめから子どもが笑顔へ」

ワークショップ事業

市民の人権擁護の会

千葉支部

事業計画書

事業名	「いじめから子どもが笑顔へ」ワークショップ事業
団体名	市民の人権擁護の会 千葉支部

事業概要
近年深刻化・低年齢化するいじめの傾向を踏まえ、日本の偏見・差別について歴史から学び、日本のいじめの文化への気付きと共に、「他の人の尊厳を守る」大切さを学ぶ機会を提供する事で、地域の教育支援と子どもの環境の安全を促進する。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市では、「松戸市いじめ防止基本方針」を定め、市長部局・教育委員会が連携しながら、体制整備、相談対応、未然防止、早期発見、早期対応など総合的な対策を進めている。しかしながら、いじめは市内において依然として重要な課題として認識されており、インターネットを介したいじめの拡散など形態が複雑化・深刻化している。また日本社会には歴史的な偏見や差別の構造が存在し、現代のいじめの背景として影響を与えている。
事業の目的	厚生労働省の講師派遣事業を活用することで、日本における偏見・差別の歴史と、現代のいじめ問題との共通点を体系的に学ぶ事ができる。長年メンタルヘルスの人権問題に取り組んできた専門家による人権教育セミナーも同時に開催することで、ハンセン病問題と共通点があるメンタルヘルスの歴史と人権問題も理解し、負の歴史を繰り返さないための視点を複合的に身につける。サークル対話や個別相談会も通じて「他の人の尊厳を守る」という意識の底上げとなり、地域の教育支援と子どもの環境の安全を促進する。
事業内容	以下の②③④の各ワークショップは、明市民センター第1会議室にて1日のみ集中的に開催し、参加者を同日に結集する。講師は外部講師1名と弊会講師1名の計2名で実施する。 **①事前広報活動**　市内の幼稚園・認定こども園・私立保育園・児童発達支援事業所・放課後等デイサービス・就労継続支援A型・B型・小中学校等へ事前に架電し、チラシ送付の承認を得た施設の送付先リストを作成の上、チラシを郵送する。郵送に際してはラベルシール作成等の準備を行う。また、公共施設には市民自治課へ配架を依頼し、SNSや電子メッセージによる周知も併用する。さらに、市内の店舗を訪問し、許可を得た協力店舗へチラシ設置を依頼し、そのようにして広く市民への周知を図り、できる限り多くの市民の方にご参加頂くようにする。 **②セミナー**　お二人の講師から複合的に日本の偏見・差別についての歴史を講義頂く事で人権という深い主題について内省が促進される。書籍やインターネット情報と違って、リアル・セミナーは、「他の人の尊厳を守る」事がどれだけ重要なことかを、五感と心で感じ取ることができる事に大きな意義がある。セミナー後、参加者にアンケート用紙にてアンケートを実施し回答してもらう。 **講師①望月富美絵氏**　一般社団法人 命と人権のライト代表理事 厚生労働省講師派遣事業講師（ハンセン病問題啓発のための講師派遣事業の登録講師）ハンセン病問題の人権啓発の専門家。学校・自治体での講演多数。活動スタイル：ハンセン病問題の差別偏見の歴史教育、行政・市民団体との

<table>
<tr><td></td><td>連携、人権啓発(パワーポイントを使った講和、上映、紙芝居)「人権とは何か」を誰にでも分かる言葉で説明ができ、回復者家族としての人生被害の実体験からのお話は、聞く人の胸にささるとして評判がある。
講師②米田倫康氏 市民の人権擁護の会 日本支部 代表世話役。灘中・灘高、東京大学工学部卒。在学中よりメンタルヘルスの領域での人権問題に取り組む。東京大学でのセミナーでは 3,000 名以上の申込者が殺到。塾講師や家庭教師として長年子ども達の勉強を教えていく中で、実際起こっている子どもを取り巻く家庭や学校での問題にも対処。精神医療・発達障害の歴史から WHO と国連が勧める子どもの心のケアなど国際的な視点まで幅広い知見。
③サークル対話　サークル対話では、参加者が講師とともに輪になって着席し、いじめに関する課題を共有しながら、互いの意見や経験を交換する対話型の学習を行う。又、参加者が他者の体験や意見に触れることで、人の尊厳がどのような場面で損なわれ得るのかについて理解を深める契機となる。
④個別相談会開催 いじめやメンタルヘルスに関する個別の相談を受け付け、子どもを取り巻く問題について、講師等が個々人の状況に応じた助言を行う事で、子どもの心の安全を確保するための実践的対応力の向上を図る。「命と人権のライト」のスタッフは、日頃よりいじめ相談に対応しており、本事業の趣旨に賛同いただいており、相談員としてもご協力を頂ける。
2　スケジュール
<table>
<tr><td>実施月</td><td>具体的な取り組み</td><td>実施体制、対象、場所など</td></tr>
<tr><td>2026/5</td><td>チラシ制作・印刷発注</td><td>構成員　自宅</td></tr>
<tr><td>2026/6
2026/7
2026/8
2026/9</td><td>事前広報活動①
架電後チラシ郵送
市民自治課への配架依頼
店置き依頼・SNS や電子メッセージ発信</td><td>構成員　各自自宅でリモート
対象：市民
市内の施設・学校・保育園・幼稚園
市内のお店やこれまで協力頂いた方々</td></tr>
<tr><td>2026/10</td><td>ワークショップ開催
セミナー②、サークル対話③、個別相談会④、アンケート実施</td><td>明市民センター第 1 会議室
構成員　講師①②
命と人権のライト スタッフ
対象：市民</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>既存の事業からステップアップする部分</td><td></td></tr>
<tr><td>事業従事者数</td><td>５名（予定）</td></tr>
<tr><td>事業の目標</td><td>**ご参加者(目標)**保護者：20 名 学校/保育関係者：20 名 施設・支援関係者：10 名　その他：6 名　合計：56 名　アンケート：50 名（うち高評価９割）
歴史的に繰り返されてきた差別や偏見の構造が、現代のいじめの背景に影響を及ぼしていることを理解し、人の尊厳を守る視点を身につけた人材を育成することを目標とする。</td></tr>
<tr><td>今後の展望</td><td>いじめに関する理論と実践について体験的に理解し、“人の尊厳を守る”視点を身につけ、学校・家庭・地域における人権意識が向上する。
これにより、いじめの未然防止や子どもの心の安全確保が促進され、松戸市におけるいじめ問題対策や、教育環境の形成に寄与する。</td></tr>
</table>

事業の予算概要

【収　入】　　（単位：円）

科　目		金　額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 5,549	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額（A）	¥ 5,549	
市	市民活動助成金（B）	¥ 49,941	
合計額（C）＝（A＋B）		¥ 55,490	

【支　出】

科　目		予算額	積算内訳
	使用料及び賃借料	¥ 750	会場使用料 650円 電源アダプター：50円（1時間10円） 延長コード：50円（1時間10円）
	印刷製本費	¥ 11,420	カラー印刷　5,000枚
	通信運搬費	¥ 32,260	幼稚園・認定こども園・私立保育園　30 X 210円=6,300円 児童発達支援事業所 82 X 110円=9,020円 放課後等デイサービス 40 X 110円=4,400円 就労継続支援A型・B型 46 X 110円=5,060円 小学校 46校　中学校 22校 合計 68校 X 110円=7,480円 合計：266施設（松戸市内に限る）
	消耗品費	¥ 5,560	ラベルシール:2,000円 封筒：3,000円 アンケート用用紙:56枚x10円＝560円
	交通費	¥ 4,000	弊会スタッフ4,000円（ワークショップ当日の交通費）
	食糧費	¥ 1,500	望月講師お弁当・お水代
	対象経費の合計（D）	¥ 55,490	
その他経費			
	その他経費の合計（E）	¥ 0	
合計額（F）＝（D＋E）		¥ 55,490	

【チェック項目】

1　助成金（B）が対象となる経費（D）欄の90%以内、自己資金（A）欄が対象経費（D）欄の10%以上であること。

2　助成金（B）が、スタート助成の場合は１事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は１事業あたり30万円以内であること。

No. 7

《　スタート助成　》

誕生日に届くあたたかなつながりづくり事業

特定非営利活動法人

さわやか福祉の会・松戸くらしの助っ人

事業計画書

事業名	誕生日に届くあたたかなつながりづくり事業
団体名	特定非営利活動法人さわやか福祉の会・松戸くらしの助っ人

事業概要
地域で孤立しがちな高齢者等に、手作りの誕生日カードを届け、「あなたを祝っています」という温かなメッセージと「松戸くらしの助っ人」という居場所で行われている交流イベントを伝えます。Webからの誕生日カード送付を申し込めるシステムを整え、対象者ご本人はもちろん、遠方に住むご家族や周囲の支援者からも手軽に申し込める体制を整備します。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市では、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、見守りや外出支援、交流の場づくりなどを進めていますが、ひとり暮らしや家族・地域とのつながりが少ない高齢者は、人と接する機会が減ることで、孤立や閉じこもりにつながることが課題となっています。内閣府「令和５年度　高齢者の住宅と生活環境に関する調査」では、高齢者の 13%が「週 1 回以下しか外出しない」という閉じこもりリスクに該当しており、増加傾向にあります。
事業の目的	孤立は「人とのつながりや社会との接点が少ない状態」で、支援が必要になった高齢者ほど自分から相談窓口に行かない等、外から見えにくく、問題が深刻化してから初めて発見されます。 それを防ぐために、「お誕生日おめでとう」という誕生日カードをお届けし、「あなたの存在を気にかけている人が地域にいる」というメッセージを伝え、居場所への参加につなげます。孤立している人が地域とのつながりを持つための、最初の一歩とします。
事業内容	1　事業内容 地域で独居等で孤立しがちな高齢者等に、誕生月に松戸くらしの助っ人ボランティア有志が作成する手作りの「お誕生日おめでとう」カードを送ります。送付方法は、社協・地域包括などの団体から、誕生月の方に渡して頂くことをメインとし、担当者に住所・宛名を記入してもらい切手を貼った封書を投函していただくという方法も考えております。 また、ポスティングも行い、65 歳以上の新松戸、馬橋地区の独居もしくは独居に近い高齢者を対象とします。個人情報をいただける場合は、当法人から郵送させて頂きます。 「お誕生日おめでとう」のメッセージを伝えるとともに、さまざまな方々が種々の趣味の講座やボランティア活動に参加したり、ふらっと立ち寄っておしゃべりをするなどの人との交流を楽しめる「松戸くらしの助っ人」という「居場所」を紹介します。併せて実施している交流イベント（講座など）を紹介します。参加も促し、孤立しがちな状況から脱することにより、介護予防や認知症予防へとつなげていきます。 また、カードを作るボランティア側にも「誰かを思い、誰かのためにできることがあるという役割を感じてもらいます。 事業開始までに構築予定の Web 申し込みシステムを活用し、遠方のご家族や地域支援者が、スマホ・PC から松戸くらしの助っ人事務局へ、誕生日カード送付を手軽に申し込め

<table>
<tr><td></td><td>る環境を整え、見守りや参加のハードルを下げます。
2　スケジュール
<table>
<tr><th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、
場所など</th></tr>
<tr><td>4 月</td><td>お誕生日カード作り
Web 申し込みフォームを公開</td><td>団体構成員・地域高齢者
自団体会場</td></tr>
<tr><td>4 月～6 月</td><td>地域の社協等に趣旨の説明と協力の依頼をし、独居高齢者の情報をヒアリング
Web・広報周知を継続</td><td>団体構成員・地域高齢者
自団体会場</td></tr>
<tr><td>6 月、7 月</td><td>お誕生日カード（4 月～7 月生まれ）作成・郵送・ポスティング

Web・広報周知を継続
交流イベント実施（1、2 回）（外部講師を招いた音楽療法や趣味の講座）</td><td>団体構成員・地域高齢者
自団体会場</td></tr>
<tr><td>8 月</td><td>お誕生日カード（8 月生まれ）作成・郵送・ポスティング
Web・広報周知を継続</td><td>団体構成員・地域高齢者
自団体会場</td></tr>
<tr><td>9 月～11 月</td><td>お誕生日カード（9 月～11 月生まれ）作成・郵送・ポスティング
Web・広報周知を継続
交流イベント実施（3、4 回目）（外部講師を招いた音楽療法や趣味の講座）</td><td>団体構成員・地域高齢者
自団体会場</td></tr>
<tr><td>12 月</td><td>お誕生日カード（12 月～3 月生まれ）作成・郵送・ポスティング
Web・広報周知を継続</td><td>団体構成員・地域高齢者
自団体会場</td></tr>
<tr><td>令和 10 年
1 月～3 月</td><td>プロジェクト総括
交流イベント実施（5 回目）</td><td>団体構成員・地域高齢者
自団体会場</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業従事者数</td><td>20 名</td></tr>
<tr><td>事業の目標</td><td>① 交流イベントを 5 回実施します。5 回のうち 2 回は外部講師を招いての音楽療法イベントとし、3 回は書道や体操などを楽しむイベントとします。
② 郵送などで、お誕生日カードをお届けする 30 名（月）ほどの高齢者の中から、この交流イベントへの参加者 2 名を目指します。
③ Web 申し込みよりの交流イベント参加者 1 名（月に）を目指します。
④ 助っ人内外にも交流イベント参加者を募るので、この計 3 名にも、他の参加者との交流を楽しんでいただきます。</td></tr>
<tr><td>今後の展望</td><td>松戸くらしの助っ人という居場所を通して、多くの高齢者が「支援を受ける」だけでなく、出来る範囲で松戸くらしの助っ人のボランティア活動に参加出来るように、寄り添い、「支援を受ける」側から地域社会で積極的に活動し、地域の高齢者に生きがいを見出してもらうことにつなげていくことを目指します。</td></tr>
</table>

事業の予算概要

【収　入】　　（単位：円）

科　目		金　額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 12,000	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額（A）	¥ 12,000	
市	市民活動助成金（B）	¥ 100,000	
合計額（C）＝（A＋B）		¥ 112,000	

【支　出】

科　目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	消耗品費	¥ 28,150	文具類（糊、セロテープ、はさみ等）　4750円 色画用紙　500円×20セット 折り紙、シール　5000円 洋型封筒　300円×12セット 長3封筒　700円×2(100枚×2) スタンプ　3400円
	印刷製本費	¥ 25,000	チラシ印刷　5円×1000枚 パンフレット印刷　50円×400部
	通信運搬費	¥ 21,850	封書郵送　110円×140通=15400円 レターパック　430円×15＝6450円
	報償費	¥ 25,000	講師謝礼5000円×5回（交流イベント講師料）
	食糧費	¥ 12,000	2000円×5　交流イベント参加者のための飲料（コーヒー、お茶）とお茶菓子 1000円×2　交流イベント講師のお弁当とお茶
	対象経費の合計（D）	¥ 112,000	
その他経費			
	その他経費の合計（E	¥ 0	
合計額（F）＝（D＋E）		¥ 112,000	

【チェック項目】

1　助成金（B）が対象となる経費（D）欄の90%以内、自己資金（A）欄が対象経費（D）欄の10%以上であること。

2　助成金（B）が、スタート助成の場合は１事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は１事業あたり30万円以内であること。

No. 8

《　ステップアップ助成　》

「蘇る鮮魚街道」冊子発行事業

金ケ作陣屋研究会

事業計画書

事業名	「蘇る鮮魚街道」冊子発行事業
団体名	金ケ作陣屋研究会

事業概要
区画整理で消失した鮮魚街道の一画が陣屋研究会の２年にわたる調査で正確に判明した。鮮魚街道の全体の姿と合わせて冊子化し、成果を後世に伝えていくとともに、地域の観光振興にも貢献していく。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	鮮魚街道は江戸時代、銚子沖で捕れた鮮魚を江戸まで輸送していた歴史ある古道だが、高度成長期に行われた区画整理により、消失してしまった道もある。鮮魚街道を歩くことで、観光資源としての価値を発揮するが、「東金御成街道」のような看板も無いため、十分活かされているとはいえない。
事業の目的	冊子を通じて、布佐から松戸宿まで約 30 キロにわたる鮮魚街道の魅力を詳しく紹介するとともに、古道歩きに役立つ食堂、公園、コンビニ、公共交通機関などの実用情報や古刹、道しるべ、地域の歴史、グルメなどの見ところを広く掲載し、読者が実際に歩いてみたくなる内容を目指す。 これにより、鮮魚街道への関心を高め、沿道地域への来訪を促進することで、地域の活性化と観光振興につなげる。 また、冊子を博物館、図書館、学校、教育委員会等に贈呈し、鮮魚街道にまつわる地域の歴史、文化の普及と次世代への継承を図る。
事業内容	1　事業内容 冊子は８００冊作製し、松戸市の博物館や図書館、学校、市役所、教育委員会、観光協会、さらには鮮魚街道の沿線自治体や観光協会など各方面に贈呈する。無償配布が原則。ただし個人からの希望があれば原価相当で有償配布する。 冊子の内容は、３つのテーマからなる。江戸時代の鮮魚輸送の様子の全体がわかるもの。利根川を布佐まで遡る船の速度や所要時間、１００疋を超える馬の大行列のことなど。蘇る鮮魚街道。消えた道をどのようにして正確に見つけていったのか、過程も合わせて地図で示す。消える前の街道を知る年配者の話も興味を誘う。古道歩きに必要な情報は、冊子の魅力の一つだ。陣屋研究会のメンバーが総力をあげて調査したものを出版社に出稿し、８月頃の完成を目指す。 本の完成を待って、鮮魚街道の当時の様子、地形等に興味を持つ市民の参加を募り、研究会メンバーと共に、実際に鮮魚街道を歩き、水切り場、野馬除土手の位置などを説明しながら散策する。また、常盤平文化祭では、ステージにて本の紹介、解説をしながら、別室でパネル展示を行い、研究会メンバーが解説もする。八柱さくら祭りにも専用のタープを張り、パネル展示をし、希望者には本を有償配布する。

<table>
<tr><td></td><td>2　スケジュール
<table>
<tr><th>実施月</th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、場所など</th></tr>
<tr><td>4 月</td><td>出版社に出稿
鮮魚街道の散策参加募集</td><td>データ送信、研究会メンバー、緑と花のフェスティバル</td></tr>
<tr><td>6 月</td><td>校正 4 回</td><td>研究会メンバー、
門前町会集会所</td></tr>
<tr><td>8 月</td><td>冊子完成、配布</td><td>研究会メンバー、門前町会集会所、
地域住民、学校、図書館等</td></tr>
<tr><td>10 月</td><td>松戸市内の鮮魚街道の散策
常盤平文化祭に参加広報</td><td>研究会メンバー、松戸市観光協会、
地域住民、門前公園～子和清水等
研究会メンバー、来場者</td></tr>
<tr><td>2 月</td><td>鮮魚街道散策
布佐～阿夫利神社(印西)</td><td>研究会メンバー、参加者</td></tr>
<tr><td>3 月</td><td>八柱桜まつり参加、
広報活動</td><td>研究会メンバー、来場者</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>既存の事業からステップアップする部分
（ステップアップ助成のみ)</td><td>令和 6 年以降、消えた鮮魚街道の調査を行い、その成果を発表した。
令和 8 年、布佐～松戸河岸までの鮮魚街道の現地調査を実施した。
上記の研究成果を広く市民に還元し、歴史や文化を後世に残す為、令和 9 年度に冊子化し、本の配布及び散策を行う。</td></tr>
<tr><td>事業従事者数</td><td>１４人</td></tr>
<tr><td>事業の目標</td><td>冊子の普及により、正確な「鮮魚街道」についての知識が広がる一助になる様、下記の各団体等に無償配布する。
市役所、市議会、教育委員会、各学校、博物館、図書館、　180 冊
市観光協会、マスコミ　55 冊
関係 5 市の自治体、観光協会　40 冊
社会福祉協議会、国際交流協会、商工会議所、文化振興財団　50 冊
地域住民、近隣各町会　170 冊
研究会会員（市内の友人、知人、親類等へも本を紹介し、
興味を持つ方へ手渡ししてもらう）　140 冊
取材協力者　30 冊
協賛金提供者　80 冊
有償配布　55 冊</td></tr>
<tr><td>今後の展望</td><td>布佐までの関係６市（松戸、鎌ケ谷、白井、柏、印西、我孫子）が手を組んで、沿道に一定の距離で案内板を立てたり、鮮度を保つための水切り場があったところには「鮮魚輸送」の説明板を立てるなどの働きかけや、６市の観光協会による「鮮魚街道サミット」の開催をめざす。</td></tr>
</table>

事業の予算概要

【収　入】　　（単位：円）

科　目		金　額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥　140,000	
	寄附・協賛金	¥　209,300	
	有償配布	¥　40,700	740円 x 55冊
	自己資金の合計額（A）	¥　390,000	
市	市民活動助成金（B）	¥　300,000	
合計額（C）＝（A＋B）		¥　690,000	

【支　出】

科　目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	印刷・製本費	¥　590,000	原稿校正4回　¥50,000、A5版　100ページ　800部　¥540,000
	通信運搬費	¥　20,000	郵送料
	消耗品費	¥　15,000	コピー・梱包・封筒代
	対象経費の合計（D）	¥　625,000	
その他経費	食料費	¥　35,000	作業にあたる会員のお茶、昼食代
	ガソリン代	¥　30,000	
	その他経費の合計（E）	¥　65,000	
合計額（F）＝（D＋E）		¥　690,000	

【チェック項目】

1　助成金（B）が対象となる経費（D）欄の90%以内、自己資金（A）欄が対象経費（D）欄の10%以上であること。

2　助成金（B）が、スタート助成の場合は１事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は１事業あたり30万円以内であること。